MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．４．９　発行元
第 465 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ロス・マクドナルドの代表作

ハメット、チャンドラーの流れを引き継ぐ正統派ハードボイルドのロス・マクドナルド。その代表作について考える。世間的な評価はほぼ定まっているような気がするけれども…。『ウィチャリー家の女』から順に。

正統派ハードボイルドの流れ

ロス・マクドナルド作品について。私なりの「ベスト表」はこの『ミステリ読書案内』の第５４号に、そして「読む順番」は第１８１に掲載している。そちらも併せて見ていただくと有難い。

代表作の第一に『ウィチャリー家の女』、第二に『さむけ』とすることには多くの人の賛成を得ることができるだろう。最もロス・マクドナルドらしさの現れた作品である。あとひとつだが、初期の作品から選ぼうと考えた。転換点となったのは『青いジャングル』『三つの道』『動く標的』のあたりだと思うのだが、残念なことに私の手元に本が残っていない。やむなく『トラブルは影法師』にした。短編集の『わが名はアーチャー』を選ぶ手もあったのだが、これまた手元に本がなかった。

正統派ハードボイルドで言うと、ハメット作品の再評価やチャンドラー作品の新訳など若い人たちが手にする機会はまだ確保されているが、ロス・マクドナルド作品は注目度は弱まってきている感じがする。「私立探偵小説」としてロス・マクドナルド作品を読んでもらえるのならそれはとても有意義なことだ。是非お薦めしたい。

NO.3「トラブルはわが影法師」

１９４６年の作。『暗いトンネル』に続く長編第二作に当たる。リュウ・アーチャー以前の試行錯誤の期間の作品で、「ハードボイルド」と呼べる内容までには至っていない。「スパイもの」の流れ。

舞台は戦時中。主人公は海軍少尉のサム・ドレイクで「わたし」の一人称視点の文。休暇中にハワイで殺人事件に遭遇。友人のエリックに紹介されたばかりの女性が首を吊られて殺されたらしい。エリックの部下ヘクターが姿を消した。サムは本土のデトロイトに戻りヘクターの母親を訪ねるが、「ブラック・イスラエル」という謎の言葉を残して母親も死んでしまった。大陸横断鉄道での旅が「トラブルが付いてくる」の中心になっている。

NO.1『ウィチャリー家の女』

１９６１年の作。私の手元にあるのは１９７６年のハヤカワ・ミステリ文庫版。小笠原豊樹訳。ロス・マクドナルドの代表作として第一に上げる人が多い。

ロサンゼルスの私立探偵・リュウ・アーチャーが田舎町のメドウ・ファームズにあるウィチャリー家を訪ねる。富豪でその町の事業の多くを握っているホーマー・ウィチャリーに依頼を受けたから。会ってみると、娘のフィービが行方不明になったという。ホーマーが２ヶ月以上の海外旅行に出掛けている間に、大学生の娘は下宿先からいなくなったようだ。娘を探してほしいと…。この初対面の時からホーマーは家庭内のことについては言い渋っていた。妻のキャサリンとは離婚しているのだが詳しいことは伝えられず…。アーチャーはホーマーと一緒に大学から調査を始める。下宿で同室だった女性、アパートの管理人、そしてボーイフレンド。手掛かりはなかなか掴めない。どうも事件に巻き込まれたというよりは自分からどこかに出掛けたように見受けられるのだが…。やがてホーマー自身の考え方や家庭のあり方に目が移っていく。家庭の中での人間関係のもつれに原因があるのでは…。現在の日本ミステリにもよくあるテーマの先達みたいなつくり。

No.2『「さむけ』

１９６４年の作。かなり新しい作品。私の手元にあるのは１９７６年のハヤカワ・ミステリ文庫版。私には『ウィチャリー家の女』よりも更に進化しているように感じられる。より複雑に、そしてドロドロした深みにはまり込んでいく感覚。彼の代表作Ｎｏ１に推したい気持ちも強い。

リュウ・アーチャーは別の事件の裁判で弁護側の証人を勤めた後、法廷内で若者に声を掛けられる。アレックス・キンケイドと名乗る人物で、相談に乗ってほしいと言う。新婚旅行に出かけた最初の日に妻のドロシー（ドリー）・マギーがホテルから消えたという話。アレックスが外に出ている間にホテルに訪ねてきた男がいるらしく、その直後に自分の足で出掛けたようだ。アーチャーは足跡をたどり、やがてドリーの居場所をつきとめた。でもドリーはアレックスの元に帰るつもりはないという。数日後、アレックスの元を訪ねたアーチャーの前に現れたのは、血にまみれた両手を振りかざしたドリーだった。アーチャーは事の原因はドリーの過去にあるのではないかと考え、更に調査を進めていく。ここにも登場してくるのがまたまた家族の崩壊という現実。精神科医が登場してくるのもロス・マクドナルド作品ではよくある展開。闇に隠された真相とは…。